

大阪市青少年問題協議会 議事要旨

1 日時

平成26年5月28日(水)午後2時～午後4時15分

2 場所

大阪市役所 7階 第6委員会室

3 出席者

有田委員・大成委員・梶木委員・加藤委員・神谷委員・河崎委員・河島委員・古島委員・笹川委員・白國委員・杉内委員・竹村委員・田中委員・中田委員・富士原委員・森栗委員・矢野委員

(本市)

内本こども青少年局長・諫山こども青少年局理事・
田丸こども青少年局青少年担当部長・谷口こども青少年局企画部青少年課長

4 議題

- (1) 経過報告
- (2) 平成26年度青少年関連事業の年度計画・予算について
- (3) 青少年問題に関する今日的課題について

5 議事要旨

- (1) 開会
- (2) 出席委員等紹介
- (3) 条例改正の報告並びに会長の選任
森栗委員を会長に選任
- (4) 議案(1)および(2)について事務局より報告
議案(3)について、各委員より意見

<主な意見>

- ・大阪市の少年犯罪の状況は全国的に見て最悪な状況である。特に中学生に対する対策が必要で、再犯率が高いことから少年サポートセンターで取り組んでいるが、対応できる絶対数が現状少ない。非行を繰り返す子どもたちには家庭に居場所がなく町へ出てまた法を犯してしまうという連鎖があるので、居場所を作りサポートする必要がある。大阪市にも少年の居場所づくり、立ち直り支援に取り組んでもらいたい。
- ・子ども達の中で非行のとらえ方が変わっている。非行は減少しているが、子どもたちが2分化している。昔は大人への通過儀礼で子どもたちに幅広くあったものが、今は多くの子どもに非行が縁遠くなる一方で、恵まれない家庭に育った子どもたちに起きている問題となっている。特に中学生の処遇に関わる受け皿がない。
- ・青少年指導員はスポーツ大会やキャンプなどを通して町でうろろしている子どもたちに取り組んで

きた。

- ・虐待など悲惨な事例はたくさんある。命の大切さ、子どものときからの教育が大切。
- ・子どもの貧困という根本の問題がある。子どもの見守りが必要。法律もできたので大阪市としても取り組んでほしい。
- ・人間力、人間関係を築けるかが大切。学校選択制が始まろうとしているが、地域と学校、地域と家庭のつながりが希薄になっている。桜宮高校の事件もあり体罰の問題などから先生も大変になっているが適切な指導ができないと非行も防げない。
- ・高齢者にある老人いこいの家といったような居場所が子どもたちにはないが、プレイパーク、寺子屋といった取り組みもある。また地域で小学校3年生全員に関わるという事例がある。子どものときからの声かけがないと、中高生になった子たちに声かけができない。
- ・子ども会ではまさにそのような活動をしている。
- ・一つの団体だけでは全員に関わることはできないので地域活動協議会などがそういった取り組みを立ち上げた方がいいのだが。
- ・プレイパークは西成区でモデル事業を立ち上げようとしているところだが、遊びを通して子どもも大人も参加でき、スポーツのできる子だけになることもない、人間力という人との距離感も地域の人が運営する中で培われる。プレイパークの中に寺子屋のような勉強できる場所を置いている事例もある。
- ・望まない妊娠の話も出ているが、デートDVについて、ノーと言えることが大切であることを伝えていかないといけない。
- ・カウンセリングが必要になるが、時間もお金もかかる。
- ・話が広がっているので、各委員、それぞれが考える、今できること、今すべきこと、根源的な問題、などを書いてください。(ワークショップ形式で各委員が取組み項目を紙に書いて出しあう)

< 各委員があげた取組み項目 >

* 分類は事務局の試案

地域におけるサポート連携 等

- ・青少年指導員のこれまでの活発な活動を引き継ぎどう連携するか
- ・区で困難事例を包括的に！
- ・非行に走りそうな少年を見つけたら数人でジット見つめる
- ・学校と地域とPTAの連携強化のシステム作り。教育現場のサポート体制
- ・「怖い先生」を育てる、守る
- ・行政の業務分担への関わり、改善（指導員・福祉委員制度）
- ・子どもにやさしいまちづくりの推進（子どもの声を聴く）
- ・学校選択制の中での地域、こどもの見守り
- ・町のおまわりさんを増やして欲しい。BBSの活動

こどもの居場所作り

- ・「いきいき」と子どもの家事業並存
- ・いつでも立ち寄れてサポートの受けられる場所の設置（中学生等。学習支援等も。常設・常駐で）
- ・地域における冒険遊び場づくり（プレーパーク）
- ・空き家を青少年の家に（寺子屋やパソコン教室などの活動を通じて居場所作り）
60歳以上のボランティアを募集し、管理を含めて任せていく
- ・公園を子ども達の活動の場に（プレーパーク、バスケットなどが出来るように。）
土・日曜日に実施し、青少年リーダーや若い親たちで指導・支援グループをつくる
- ・非行少年の帰住先となる受け皿の設置・運営
- ・子どもの居場所作り。NPOへのサポートなど
- ・子どもの居場所作り。希望として母親は満3歳まで家庭にいて欲しい

子育て支援、親支援

- ・根源は幼児教育。ひとりで悩む母親。母親同士の交流が少ない。地域で子育て支援を通じ地域との連携を大切にする。 明るい家庭づくり
- ・子どもの貧困 何から始める？
- ・母親になれる教育をする
- ・子どもの数を増やす大胆な施策を

こども・青少年の自立支援

- ・「働く」大切さ 伝える
- ・人間力「UP」のための研修会開催
- ・ひとり親家庭の子どもの支援
- ・子どもの社会的な自立支援
- ・いのちの教育